

教室だより

佐渡市立金井小学校
佐渡ことば・こころの教室

平成21年7月16日
第748号

〒952-1209 佐渡市千種155

TEL: 0259 (63) 4156 (直) 4115 (代) FAX: 4117

<http://www.kanai-es.ed.jp>

E-mail: kanai-es@sado.ed.jp



1学期も残り少なくなりました。4月から新しい生活に入ったお子さんも多かったと思います。調子はいかがでしょう。この4か月間のお子さんの頑張りを振り返り、成長を共に喜びましょう。夏休みやお盆休みは、ゆっくりと心と体を休めることができるといいですね。

T君が教えてくれたこと

T君は今、佐渡市内の工場で一生懸命に働いている20歳代の青年です。T君を担当したのは、彼が小学校2年生の時。その当時は、彼の「歩く姿」など見たことはなく、常に「走り回る姿」のみ。私がちよっと思目を離れた隙に、周りの子のノートに鉛筆で落書きを書いたり、誰彼かまわず頭を叩いて回ったりして、クラスの子もたちからのT君への苦情が絶えませんでした。特別支援教育に対する情報や周囲の理解を今のように得られなかったあの頃。ただ、ただ、T君を叱ってばかりいた自分がとても恥ずかしく、今となってはT君に申し訳ない気持ちでいっぱいです。

平成19年の4月、学校教育法が一部改正され、全国のどこの学校でも特別支援教育を「行うこと」が求められる時代になりました。特別支援教育に関する記事や本もたくさん出回り、「何を選んでよいのか分からない」と言った声も聞かれるくらいになっています。しかし、私にとってはT君と過ごした日々が今となっては一番の教科書であり、特別支援教育を考える原点となっています。



偶然にも先日、T君に店先で会いました。「元気そうだね。お給料は何に使ってるの？」という私の問い掛けに「家に入っているよ。当然だよ。」と答えてくれたT君の笑顔がとても輝いて見えました。(山口)

「くやしい・・・」

あるお子さんが課題に取り組みながらつぶやいた言葉です。十字に区切られたマス目にSのような単純な曲線が書かれている見本と同じように、となりのマス目に書き写すという課題でした。このお子さんは鉛筆の握り方が独特で、持った時に鉛筆が手前でなく違う方へ傾いてしまう癖があり、決して器用ではありません。始めは区切りの線と交差していることを見落としていました。そこで私が「ここを通ってるね。」と指さしすると、次にはそこに気を付けて書けました。でもSのような曲線の半分はまっすぐに書いてしまいました。書いて消すを繰り返すこと十数回、「わかった！もうちょっと大きくすればいいんだ！」と言い、見事お手本そっくりに書け、満面の笑みを浮かべて私とハイタッチしました。

小さな課題ですが（上手にやりたい、でもできなくてくやしい）という気持ちをバネに、失敗をおそれずに頑張る姿に感動し嬉しく思いました。『誤りを食べながら太る』ということばをどこかで目にしたことがあります。子どもがうまくできない時つい手を出してしまいがちですが、じっくり待つてあげることが大切だと改めて感じた出来事でした。(金子)





未来のためにできること K・T



息子は集団の中で、ルールに従って楽しく生活することが苦手です。ちょっとしたきっかけで、楽しく遊んでいた友達とトラブルを起こしたり、授業に集中できずに鉛筆や筆箱をおもちゃ代わりにして、いたずらをしたりしている時があります。参観日の時は、近くまで行って注意したいくらいです。

ことば・こころの教室には、今年度からお世話になっています。初回の相談の際に、担当の先生が教えてくださいました“お手伝いカード”を実践して一年が経とうとしています。“お手伝いカード”とは、小さなお手伝いでも、できたらシールをはってしっかり褒めてあげ、その頑張りを認めてあげるというカードです。

息子は“お手伝いカード”にシールをはるようになってから、誰かのために良い事ができたと実感し、目標に向かって努力をすることができるようになり、少しずつではありますが、落ち着きを手に入れているように感じています。

去年より今年、今年より来年と、少しずつ成長する子どもを信じて楽しく過ごしていきたいですね。

お知らせ



親子体験活動の御案内

日時 平成21年7月26日(日)
9:50~14:00

会場 ふれあいハウス 潮津の里

内容 親子でそば打ち体験
手打ちそばと手作りカレーの昼食会、グループ懇話会

おいしいそばとカレーを食べ、みんなで楽しみましょう！



子育てワンポイントアドバイス



～カナダの教育に学ぶ～

カナダという国は、多民族、多宗教の人々で構成される移民国家の一つです。宗教や風習についての誤解や偏見が広がることは、国家の安定を危うくしかねません。そのため、教育の場でも乱暴な行為や悪いことば（「バカ、シネ」などのバッドワード）に対して大変厳しく注意を受けるそうです。大人たちが、周りの人を不愉快にすることに対して、毅然とした姿勢で対処する教育の影響でしょうか、カナダは凶悪犯罪がとても少ない安心な国とされています。大人として、子どもへの接し方を考えさせられる話です。